

令和6年度の自己評価及び学校関係者評価実施報告書

学校法人須田学園 きよみ幼稚園

1 自己評価の実施

教職員自己評価	実施日	令和7年3月5日
保護者アンケート調査	実施日	令和7年2月5日から2月14日

2 学校関係者評価実施

学校関係者による評価	実施日	令和7年3月19日
------------	-----	-----------

2 本園の教育目標

- ・調和のとれた高い人格を持つ子ども
- ・健全な社会生活を営め、社会に貢献できる子ども

3 評価項目

- (1) 幼稚園運営について
- (2) 健康と安全について
- (3) 保育内容について
- (4) 園行事について
- (5) 教職員について
- (6) 子育て支援について

令和6年度 自己評価報告書

令和7年3月14日

学校法人須田学園 きよみ幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・調和のとれた高い人格を持つ子ども
- ・健全な社会生活を営め、社会に貢献できる子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標、計画

園生活の中での様々な経験に興味や関心を持ち、豊かな感性を育てる。また、人に対しての愛情や信頼感を園での活動を通じて育てる。

3. 評価項目に対する自己評価と取り組み状況

	評価項目	自己評価	取 り 組 み 状 況
1	幼稚園運営	A	<ul style="list-style-type: none">・複数クラス態勢で、2歳児クラスを運営した。保護者の方のニーズに合わせ、フレキシブルな通園スタイルで在籍できるように、週コースやスポットコースを設置した。・引き続き、保護者からの直の意見や要望を大切にし、園の運営の向上を図った。・保育室内の改修工事を適宜行い、「過ごしやすい保育室」を園児に提供した。・保護者向けの駐輪場に屋根を付け、登降園時に活用していただいた。
2	健康と安全	A	<ul style="list-style-type: none">・園バスの置き去り防止に対しては、引き続き乗降園児の人数を複数の職員で確認し合い、バス運転手が車内の最終確認を行った。・園児の安全のため、通用門の開けっ放しがないように、常に門が閉まっているかを職員が目視した。また、保護者の方や出入り業者にも周知した。また、登降園時など門を開けて

			<p>いる際は、必ず職員を配置するようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育利用者の食のリズムを整えるために、おやつを提供を開始した。
3	保育内容	B	<ul style="list-style-type: none"> ・園児に様々な経験の機会を設けられるよう、外部団体の協力も得ながら保育中にイベントなどを行った。 ・預かり保育時間中の活動内容を拡充し、従来の自由あそびだけでなく、製作や集団あそびなどを取り入れた。
4	園行事	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方が参観しやすいように、大きな行事を土日に実施した。 ・園児にとって、自信につながるような達成感のある行事に向けての取り組みを行った。
5	教職員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての職員に、園外の研修を促した。研修で得た知識を職員会議でアウトプットすることで、当職員だけでなく他の職員にも情報を共有することができた。 ・時差出勤の職員も増え、連絡事項に漏れないよう事務所のボードを活用して伝え合った。
6	子育て支援	B	<ul style="list-style-type: none"> ・父母研修会を実施し、保護者向けに外部講師による講演を行った。 ・自宅での防災知識を深めるために、講演会を行った。 ・保育後の園内での課外教室を充実や課外教室までの送迎の斡旋を行い、放課後の保護者の負担を軽減させる取り組みを行った。

評価 A・・・十分に成果があった。 B・・・成果があった。
C・・・少し成果があった。 D・・・成果がなかった。

4. 令和6年度の課題

1	幼稚園運営	・広域からの通園者に対応できるよう、通園バスの走路の拡充を図っていく。
2	健康と安全	・アレルギー対応が必要な園児に対して、職員全員が情報を共有し、知識を高めていく。
3	保育内容	・天候に左右されない遊びのスペースや活動内容を充実させる。 ・製作活動では色々な技法を取り入れ、創造力を高められるよう仕向けていく。
4	園行事	・保護者参観行事を精査していく。また、保護者が参観しやすい導線や参観場所を提供していく。
5	教職員	・保護者や園児に向けての挨拶を丁寧に行うよう全職員で徹底していく。
6	子育て支援	・地域の乳幼児に対して、子育て情報を配信し、幼稚園により親しみを持たせていく。

令和6年度 学校関係者評価報告書

令和7年3月28日

学校法人須田学園 きよみ幼稚園

令和7年3月19日に、学校評価委員会を開催しました。

会議において、 職員自己評価
保護者アンケート
令和6年度自己評価報告書

をもとに、評価委員会との意見交換を行いました。

1	幼稚園運営	・雨天時に活用できる、保護者駐輪場のカーポートの設置は好評だと思います。
2	健康と安全	・バスの乗降時の職員同士の声の掛け合いは、引き続きしっかりと行って欲しいです。
3	保育内容	・色々なことを経験できる場を与えてくださり、とてもありがたいです。今後も、子どもたちが楽しめる企画を期待しています。
4	園行事	・休日の開催で、参観人数が増えることによって、自分の子どもの姿が見えなくならないように、環境設定を整えて行って欲しいです。
5	教職員	・職員によって、保護者や園児に対しての対応に差があるので、全職員が同じ気持ちで対応していけるといいと思います。
6	子育て支援	・地域の乳幼児に対して、子育て情報を配信し、幼稚園により親しみを持たせていく。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	きよみ幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語あそび

<テーマの設定理由>

インバウンドや移住等により、多国籍の方と接する機会が多くなってきており、園に在籍する家庭も多国籍になってきている。世界には色々な文化があり、様々な言語があるということ。「英語あそび」を通して、興味関心、理解を持つ。

2. 活動スケジュール

令和6年4月～令和7年3月（毎週月曜日・毎月のカレンダーで詳細確認）

3. 準備した素材、道具、環境設定

外国人講師、IPAD（音源）、英語の本、フラッシュカード

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

外国講師が来園する月曜日を英語デーとし、挨拶でお友だちとコミュニケーションをとったり、普段朝の会で行っている天気の確認を英語の単語で行うなど、講師の方がクラスにいなくても園児が意識的に英語を使い活動できるような環境設定を行った。

外国人講師は、各クラスに入室し、英語でのゲーム、唄を歌い、体を動かすことによって、英語が楽しい、身近に感じられるよう活動を行った。また、英語の絵本を通して、異国文化についても理解を深めることができた。

園児は、自然と単語や唄を覚え、日本語以外の言葉を自然と身に着けていた。天気、色やフルーツなど、理解しやすい単語から始まり、年長児になると簡単なフレーズや文章を真似をし、数を重ねると自然にフレーズも自ら発することもできるようになっていた。また、クリスマスや、ハロウィンなど、世界から始まったイベント

保護者には、保護者ページの写真、動画を活用し、園児の活動探求の様子を共有した。また、毎月のテーマ、狙いの記載のある英語単語のお手紙を配布した。

4. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

月曜日だけでなく、子どもたちから自然と英語がでてくるようになった。外国の講師が来る日が主体になるのではなく、日頃から朝の会で英語を使うことにより子供の英語に対する意識、意識が向上している。

特に外国の先生が園内に入っただけで、自然と先生の周りに集まってきて英語であいさつをする様子が見られた。外国の方に対する興味、抵抗がなくなり、その結果として見学でいらっしゃった保護者に対しても、英語であいさつをしようとする子供が増えた。その点からも、外国の方に対する興味、異文化の興味が高くなっていると感じた。

年少は 1 単語だけが多かったが、学年があがるにつれて文章になるようになってきた。今後も継続することでより効果が向上すると実感した。



実績報告 別記第2号様式 別紙2の
テーマごとに作成してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1700413
園名	きよみ幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

かきかた（文字あそび）

<テーマの設定理由>

ひらがなへの興味は個人差が大きくあり、その興味を向上させることが目的である。その為に、単に平仮名を学ぶのではなく、平仮名の形を体で表現したり、視覚的にわかりやすい表現方法をもちいて、興味、関心を向上させる。結果としてひらがなが書けるようになる。

2. 活動スケジュール

令和6年5月～令和7年3月（専門講師は月1回、普段は担任担当）

3. 準備した素材、道具、環境設定

ひらがな講師、鉛筆、クレヨン、筆、半紙、プリント

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

文字、ひらがなに興味を持つようになる4歳から文字あそびの活動を行う。まず、自分の名前のひらがなに興味を持つ子が多かった。他の子の名前にも自分と同じひらがながあることや、違うひらがながあることに気づいた。その中で構造が難しい文字、簡単な文字あることに着目した。簡単な構造の文字は、構造が難しい文字の中に入っていることが多く、その中でも「つ」が多いのではないかとすることで「つ」をまずテーマにした。まず、文字を体で表現し、それぞれの表現方法の違いを観察した。次に指を上に掲げ、空がきをした。数回行った後、筆を使い、半紙に書く。普段使っている鉛筆と違い、強さ加減や液体のつて具合によって、作品が異なるので、子ども同士の文字を見比べ、どのように書けばキレイに見えるのか考えた。曲がり方や、大きさ、太さ、形など、違いに気づいた。それを踏まえ、自分で紙に鉛筆で複数回かき、自分で文字をきれいに書く方法を探り、練習を行った。自然と園児同士で見比べるようになり、これが上手と声を掛けている子もいた。最後に職員がそれぞれの子の文字の良いところを見つけ、褒めた。

基本は園職員が行っているが、月に一回は専門のひらがなの講師が行っており、専門講師の声かけ、子ども自身でものごとを発見させ、興味を持たせる方法により、より子どもの意欲が向上し、園職員の手本ともなっていて、欠かせないものとなっている。

<振り返りによって得た先生の気づき>

ひらがなは教えるものという認識があったが、子ども自身で考え、文字を比べ、どのようにしたらきれいに見えるかと、自身で考えながら学ぶことが出来ると気付いた。特に子ども同士で比べ、これが上手だね。この払いがいいねなど具体的に声が上がっていることには驚いた。

当初は簡単な構造の文字を中心に行うことが多かったが、だんだん構造が難しい文字になるにつれて上手に書けるのか、という疑問不安があった。しかし、簡単な文字が、難しい文字の中に入っていることに気づくことによって、その簡単な文字が基礎となって、難しい文字でもきれいに書ける子が多かった点は驚いた。単に文字を書くこととするのではなく、文字の形や、文字に隠れている簡単な文字を見つけることにより、感覚的に書くことが出来るのだと感じた。また、最初に行っている文字を体で表現することにより、文字が面白おかしく感じ、身近なものに感じているという感覚もあった。

単に文字を教え、紙に書いてみようではなく、子どもが自分で考え、見つけることによって、文字がきれいになっていくと発見し、今後も専門講師の手本を参考に継続していく。



**実績報告 別記第2号様式 別紙2の
テーマごとに作成してください。**

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	きよみ幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体操あそび

<テーマの設定理由>

体操を通して、体の使い方や、運動の楽しさを感じ、さらに工夫やチームで協力する協調性を養うことを目標にしている。

2. 活動スケジュール

令和6年4月～令和7年3月（毎週火または水曜日・毎月のカレンダーで詳細確認）

3. 準備した素材、道具、環境設定

体操講師、IPAD（音源）、なわとび、ボール、フープ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

子どものもっと足が速くなりたいという気持ちから、「どのようにしたら足が速くなるのか」という問いに着目し、足が速くなる方法を探した。最初はスタートを早くすればよいから始まり、顔は横を向かない、体をもっと前にするなど意見がでた。その後体操の先生からのレクチャー、ヒントもあり、足の回転数を上げる、歩幅を大きくする、にたどり着いた。練習を重ねたがあまり結果として早くなった実感がない子が多いと感じた。最終的には、毎日おにごっこやマラソンなど走れば足が丈夫になり、早くなるという子もいて、毎日走り回る子が増えた。継続的なマラソン、鬼ごっこにより体力面の向上につながっている。

また、チームで体操をしたいということで、ドッチボールや大縄跳びを行った。走るのと違って、チームでの競技になる為、みんなで協力をしないと出来ない。その為作戦を練り、どのようにしたら多く跳べるのか、勝てるのかを考えた。その時に専門的な経験と知識、適切な声掛けが出来る体操の先生の的確なアドバイスにより、試行錯誤していた子どもたちが一気に正解に進んでいった。また体操の先生と一緒に体操を行うことにより、より適切な体の動かし方が身に付いた。

保護者には、保護者ページの写真、動画を活用し、園児の活動探求の様子を共有した。また、参観を行い活動の様子を伝えた。

4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

体操の先生による体操は週に1回ですが、体操の時間だけでなく、あそぶ時間にマラソンやかけっこなどで足を速くしようと挑戦している子を多く目にした。この時間に体を動かしている子が足が速くなったと感じる子がいて、自分もやってみよう自分から走るようになる子が多くなった。

体操で行った大縄跳びをやりたいと、子ども同士で大縄を回し、練習している子が多くなった。大縄だけでなく、縄跳びももっと飛びたいと感じる子も多く、なわとびも自分で行う子が増えた。体操の先生との体操の時間だけに留まらず、全体的にもっとうまくやりたい、速くなりたいというあそぶ時間でも体を使う時間が増えた。また子ども同士で、どのようにしたらもっと良くなるか作戦会議をする頻度が多くなり、自分たちで考える機会、能力が向上したと感じた。自身で疑問に思い、その疑問に対して答えを探そうとすることで、このような取り組みは様々な時間に影響し、子供の成長に欠かせないと実感した。

